

2026年度 一般選抜公立大学中期日程 [経済学部(国際商学科)] 英語  
出題の意図と解答の傾向

[I]

「光害」についての内容の理解を確かめるために「paraphrase」「rewrite」「要約」などを出題した。

1. 【解答例】

(Inventions) such as cars and plastic have transformed the world in both positive and (negative ways).

【解答の傾向】

本文中の文章を与えられた語句を使ってパラフレーズする問題である。「自動車やプラスチックのような発明は、良い面でも悪い面でも世界を変えてきた」といった内容に近い解答を求めていた。この問題は比較的易しく、多くの受験者が高得点を取っていた。ここで最もよく見られた誤りは、「for both positive and negative ways」のように in の代わりに for を使ってしまったことである。

2. 【解答】 a

【解説】 b. 「brighter」が間違い。

c. 「The biggest problem」は、夜間の明るさに世界中で不平等が生じていることではない。

d. 「due to the publication」が間違い。本の発行が光害を引き起こしたのでなく、その問題は以前から起こっていた。7割ほどの受験者がこの選択肢を選んでいて、

e. 「useful for finding stars」が間違い。

3. 【解答例】

それ(光害)は、都市に住む人々が夜に星を見ることを妨げるだけでなく、宇宙について研究しようとしている天文学者にも困難をもたらしています。

【解答の傾向】

It が示すものを捉えられていない受験者が多かった。また、astronomers を「宇宙飛行士」、difficulty と difference の取り違え、space を「空間」などの誤答が多く見られた。

4. 【解答例】

(Usually) bright light indicates day while darkness indicates night. Excessive nighttime light interrupts sleep and confuses (this rhythm).

【解答の傾向】

よく見られた解答の傾向としては、「indicate」の代わりに「show」を使うことや「day」の代わりに「noon」「lunchtime」「afternoon」などを用いるものがあつた。また、三人称単数の-sの使用に問題がある解答が多かった。誤答では、「Excessive light ...prevent us to sleep and disturb this rhythm」や「Excessive light of night preventing sleeping and confusing

this rhythm」といった誤りが見られた。

これらの問題を除けば、解答は概ね適切な文法の正確さと語の選択がなされていた。

## 5. 【解答例】

しかし、夜間の光の増加は、メラトニンの生成を低下させ、それが睡眠不足、疲労、頭痛、ストレス、不安、その他の健康問題を引き起こします。

### 【解答の傾向】

“production, which causes~” で、which を制限用法と間違えて、「~を引き起こすメラトニンの生成が・・・」と訳しているものが15%程度見られた。

## 6. 【解答】 a

【解説】 b. 「attach themselves to underwater lights」は、間違い。

avoid underwater lights.

c. 「causing insects more harm than other types of light」が間違い。

d. 「is difficult」が間違い。

e. 「国立公園で特に」とは書かれていない。

## 7. 【解答例】

(a) In fact, virtually all environments have been affected by artificial light pollution.

(b) Many manufacturers are designing new, high-efficiency light sources that both save energy and reduce light pollution.

### 【出題の意図と解答の傾向】

ここでは、受験者は設問で指定された語を用いて2つの短い日本語の表現を英語で書き換えることが求められた。

(a) 全体として、この問題の得点は高かった。しかし、「in fact」や「actually」また「virtually」を文頭に入れ忘れる誤りや、動詞の時制に関する誤り（「all environment is/ are affected」「all of the environment is affected」など）が見られた。これらの誤りは多くの解答に見られた。

(b) この問題は、受験者にとって最も難しかったが、それでも概ね50%以上であった。主な問題点は、「consideration(配慮)」の使い方であり、これを正しく使えた受験者は非常に少なかった。

例えば、「多くのメーカーが低エネルギーで光害も少ないと考えられた新しいライトを作っている」や「多くのメーカーがエネルギー消費と光害の両方が考慮された新しいものを発明している」といった不自然な解答が見られた。また、動名詞の使い方に問題が多く、「A lot of makers are make new lights」や「makers are producing new lights that both reducing energy and light pollution」のような誤りが見られた。さらに、日本語の「メーカー」に対して「manufacture」や「company」ではなく「maker」を使う誤りも非常に多かった。

## 8. 【解答】

ア) approaches	イ) cut down	ウ) direct	エ) ground
オ) solution	カ) shut	キ) ensure	ク) escape

### 【出題の意図と解答の傾向】

パラグラフを要約する力を測る問題。

選択肢の「direct」と「dictate」を見間違っている受験者が半数程度見られた。

## [II]

### A. 【解答例】

1. No / had / than
2. enough / show
3. By / any / chance
4. There / no / arguing

### 【解答の傾向】

全体的に正答率が低かった。

1. 「～するとすぐに…」を表す構文。No sooner を文頭に出すと倒置、had Barry arrived のように疑問文のような形になる。(過去完了)「No sooner+had+S+過去分詞 than S+過去形」

3. 「By any chance」もしかして、ひょっとして

4. “There is no point in ~ing” 「～しても無駄だ」

“It no arguing” “There not arguing” のような解答が見られた。

### B. 【解答】

1. ② reading
2. ④ being
3. ② those
4. ① few
5. ③ much
6. ④ true
7. ④ of

### 【解答の傾向】

3. those present 「その場にいる人々」

4. less を選んだ誤答が多かった。less は比較級なので very は使えない。また、後ろに比較対象が必要。また、people は可算名詞なので、few/many を使う。

6. 「彼らに当てはまることは、私たちにも同様に当てはまる。」「What is true of them」が主語。What = the thing(s) which